

# 小網神社 どぶろく祭 2015年11月27日

## 1. どぶろく祭



本日は、弊社の事務所が位置する日本橋小網町、小網神社で行われていたどぶろく祭を訪ねた。どぶろく祭とは、毎年11月23日に行われる、新嘗にいなめ、すなわちその年に収穫できた新しい穀物を神様にお供えし、一年の五穀豊穡を感謝する新嘗祭の後に、この小網神社で、新穀から作られたどぶろくが振る舞われるお祭である。

どぶろくとは、右下の写真の瓶をご覧くださいでもわかる通り、お酒である。しかし、ただのお酒ではない。その名も「新嘗祭御神酒」。中身はというと、米と米麴が原材料で、白いつとみのある「濁酒」というお酒である。参拝するとこの新嘗祭御神酒が頂けるため飲ませて頂いたが、美味しく、甘酒がずっとずっと濃くなったような味であった。アルコール度数

は13度ということで、味は少し似ていても甘酒より強めのお酒だ。ちなみに、この写真を撮影させて頂く時に巫女さんに伺ったのだが、このお酒は神社でしか流通していない、特別なお酒だそうです。興味が湧いたので少し調べてみると、蔵元は滋賀県中部、琵琶湖の南に位置する愛知郡という所の「藤居本家」という所だそうです。創業1831(天保2年)年、宮内庁御用達の歴史ある蔵元だそうです。



もちろん由緒ある神社に参拝することが第一目標の方々ばかりであろうが、こんな珍しいお酒が振る舞われ、また左上のどぶろく祭のポスターに写っている、愛らしい強運と厄除けの力を持つとされる「みみずく」がこの日販売されるということもあってか、お昼頃は神社の前に長い行列が出来ていた。そのため、私は日が暮れるのも近い午後4時過ぎ頃に訪ねたのであるが、この時間になっても、まだ少し写真のように列が出来ていた。丁度小網神社に着いた時には、神楽が奏でられており、この日本橋の街の片隅で周囲とは違った、ゆったりとした、しかし体がピシッとしてしまうような、奥ゆかしさが感じられた。

## 2. 小網神社と小網町

この小網神社は、1000年程前、恵心僧都源信えしんそうづげんしん(942-1017年 / 天慶5-寛仁元年)という天台宗の学僧が現小網町周辺に庵を造ったことから歴史が始まる。その庵には、今も小網神社に置かれているのだが、彼によって作られた、この世の人々が救



いを求めるとすぐさま人々を救済するという観世音菩薩像と、七福神の一人で貧困を救い財物を与えるとされている、商売繁盛・学芸成就の天女、弁財天像が置かれていた。その後、しばらくは現在の小網神社の由緒にまつわるような出来事は起こらなかったのであるが、庵が開かれてから約 450 年後程経った室町時代の文正元年(1466 年)、小網神社が造られた契機となった出来事が起こった。現在の小網町地域で流行り病が発生したのだ。被害の詳細は不明ではあるのだが、流行り病が猛威を振っていたある日、ある網師が網にかかった稲穂を持ち、庵に訪れた。

流行り病と網師、そして小網神社との関係は一体何なのか、気になる方も多だろう。

不思議な話ではあるのだが、網師が庵で数日間過ごした後のある夜、当時の庵主が寝ていると、夢にこの庵を造ったとされる先ほどの恵心僧都が現れたそうだ。その夢で恵心僧都は、庵主にこのふらつと庵に現れた網師を稲荷大神として崇めれば、流行り病は治まると告げたそうなのである。庵主もとても素直な方だったのであろう、早速夢でのお告げを人々に伝え、みなで協力し、網師を「小網稲荷大明神」とし、神社を造り、祈りを行った。

するとたちまち流行り病は言われた通り、治まったそうなのである。ちなみに、夢を見た日の朝には、例の網師は消えていたそうだ。なんとも不思議な話であるが、なかなか私の聞いたことのない「小網」の地名の由来としては、独特な、そして興味深い、納得のいくものではある。

同時代を生きていた、川越城・江戸城を築城し、扇谷上杉氏に代わり相模・武蔵両国を実質支配していた太田道灌もこの話を聞いたのち、よくこの小網神社にて参拝していたそうだ。彼に至っては、この話を聞いてか小網神社に寄付をし、小網神社を小網山稲荷院万福寿寺と命名したそうだ。この小網神社に、太田道灌も来ていたと知ると、江戸・東京の歴史のある意味「狭さ」と深さを感じる。また、小網町という地名も、小網神社が氏神とされた 1600 年前後に決められたそうで、現在はこの稲荷大神(倉稲魂神)と弁財天(市杵島比賣神)等が御祭神として祀られている。来年鎮座から 550 年を迎えるため、修繕工事がされているが、現在の社殿、及び神楽殿は昭和 4 年に造営された。その後、東京大空襲の戦禍を免れ、中央区の区民有形文化財建造物に登録されている。

### 3. 日本橋七福神

境内の中に、先ほど紹介した弁財天の像と「銭洗いの水」(左の写真)が置かれている。この弁財天様の銭洗いの水で硬貨を清め、財布に収めておくと、財運が向上するそうで、私も早速あやかりたく思い、参拝を行い、冒頭の御神酒を頂いた後、早速持っ



ていたお金を清めてきた。皆さんも是非お清めしてはいかがでしょうか。

また、右の写真の弁財天と同じく七福神の一人で、幸福・俸禄(=給与)・長寿の山特を備えているとされる福祿寿も境内におられたので、こちらも併せてお参りさせて頂いた。

小網神社には、この七福神の 2 人がいらっしゃるが、日本橋界限には他の 5 人の七福神がおられる神社がある。こちらも紹介させて頂こう。まずは小網神社の福祿寿と弁財天、次は布袋様のいる人形町の茶の木神社、同じく人形町の大黒天の松島神社と毘沙門天の末廣神社、寿



老神の浜町の笠間稲荷神社、修繕完了間近であり、安産・子宝で有名、半蔵門線の駅名にもなっている水天宮の弁財天、そしてべつたら市のレポートでも紹介させて頂いた恵比寿様の堀留町の梶森神社、本町の同じく恵比寿様の寶田恵比寿神社の計8社が日本橋の七福神だ。毎年お正月には、色紙をこれらの神社で購入し、御朱印を頂きながら参拝する「日本橋七福神巡り」もできるので、寝正月防止や初詣も兼ねて楽しんでみてほしい。

日本橋の歴史をまた一つ、小網神社のどぶろく祭を訪ねることで知ることができた。小網神社では、度々お祭が行われているので、折に触れてまた訪ねてみたい。また同時に、日本橋周辺の紹介した七福神を含め、今後も様々な寺社仏閣も訪ねていきたい。

進藤竜一

小網神社・小網町・日本橋七福神簡略図

